

鳥羽市の人事行政の運営等の状況について

「鳥羽市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例」(平成18年条例第2号)の規定に基づき、鳥羽市職員の給与や部門別職員数などを公表します。

1 職員の任免及び職員数に関する状況

(1) 職員の採用状況(23年4月1日現在)

区 分	採用者数
一般事務職	2人
技術職(水産)	1人
消防職	1人
保育士	2人
合計	6人

(注) 職員の採用は、行政需要の動向や今後の退職者数を考慮し行っています。

(2) 職員の退職者数(平成22年度)

区 分	定年退職	普通退職等	合計
市長部局等	4人	9人	13人
教育委員会	1人	1人	2人
消防	1人		1人
合計	6人	10人	16人

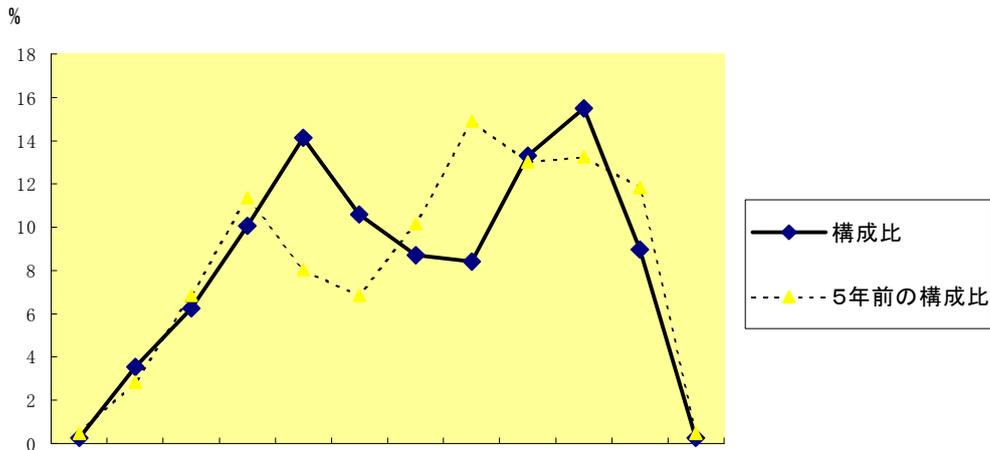
(3) 部門別職員数の状況と主な増減理由

(各年4月1日現在)

部 門		職 員 数		対前年 増減数	主 な 増 減 理 由
		平成22年	平成23年		
普 通 会 計 部 門	議 会	4	4	0	業務の見直しによる増減
	一 般	51	51	0	
	総務企画	19	18	△ 1	
	税 務	84	77	△ 7	
	民 生	41	40	△ 1	
	衛 生	10	11	△ 1	
	農林水産	11	11	0	
	政 務	19	19	0	
	商 工				
	土 木				
計 門	計	239	231	△ 8	<参考> 人口1,000人当たり職員数 105.48人 (類似団体の人口1,000人当たり職員数 72.43人)
	教育部門	36	35	△ 1	退職者不補充による減
	消防部門	40	40	0	
	小 計	315	306	△ 9	<参考> 人口1,000人当たり職員数 139.73人 (類似団体の人口1,000人当たり職員数 94.86人)
公 営 企 業 計 等 部 門	水 道	16	16	0	退職者不補充による減
	交 通	33	32	△ 1	
	下 水 道	2	2	0	
	そ の 他	13	13	0	
	小 計	64	63	△ 1	
合 計		379	369	△ 10	<参考> 人口1,000人当たり職員数 168.50人
		[554]	[554]		

- (注) 1 職員数は一般職に属する職員数であり、地方公務員の身分を保有する休職者、派遣職員などを含み、臨時または非常勤職員を除いています。
- 2 []内は、条例定数の合計です。
- 3 教育部門には、教育長を含みます。

(4) 年齢別職員構成の状況（23年4月1日現在）



区 分	20歳 未満	20歳 ～ 23歳	24歳 ～ 27歳	28歳 ～ 31歳	32歳 ～ 35歳	36歳 ～ 39歳	40歳 ～ 43歳	44歳 ～ 47歳	48歳 ～ 51歳	52歳 ～ 55歳	56歳 ～ 59歳	60歳 以上	計
平成23年度 職員数	1人	13人	23人	37人	52人	39人	32人	31人	49人	57人	33人	1人	368人
平成18年度 (5年前)	2人	12人	29人	48人	34人	29人	43人	63人	55人	56人	50人	2人	423人

(5) 定員管理の数値目標及び進捗状況

①平成22年4月1日～平成27年4月1日における定員管理の数値目標

平成22年4月1日 職員数	平成27年4月1日 職員数	純減数	純減率
378人	360人	18人	4.8%

(注) 平成27年4月1日現在における定員の数値目標とは、「鳥羽市職員定数管理計画(平成22年6月策定)」による数値目標です。また、職員数には教育長を含んでいません。

②定員管理の数値目標の年次別進捗状況(実績)の概要

(各年4月1日現在)

部 門	区 分	22年	23年	24年	25年	26年	22年～26年 計	(参考) 数値目標
		計画始期	1年目	2年目	3年目	4年目		
一般行政	職員数	239	231	-	-	-	-	/
	増減	/	△8	-	-	-	-	
教 育	職員数	35	35	-	-	-	-	/
	増減	/	-	-	-	-	-	
消 防	職員数	40	40	-	-	-	-	/
	増減	/	-	-	-	-	-	
公営企業 等 会 計	職員数	64	63	-	-	-	-	/
	増減	/	△1	-	-	-	-	
計	職員数	378	368	-	-	-	-	360
	増減	/	△10	-	-	-	-	△18

(注) 1 計画期間は、22年～26年の5年間です。
2 教育部門には教育長を含んでいません。

2 職員の給与の状況

(1) 人件費の状況（普通会計決算）

区分	住民基本台帳人口	歳出額	実質収支	人件費	人件費率	(参考)
	(22年度末)	A		B	B/A	21年度の人件費率
22年度	21,898人	12,131,125千円	345,102千円	2,575,907千円	21.2%	24.5%

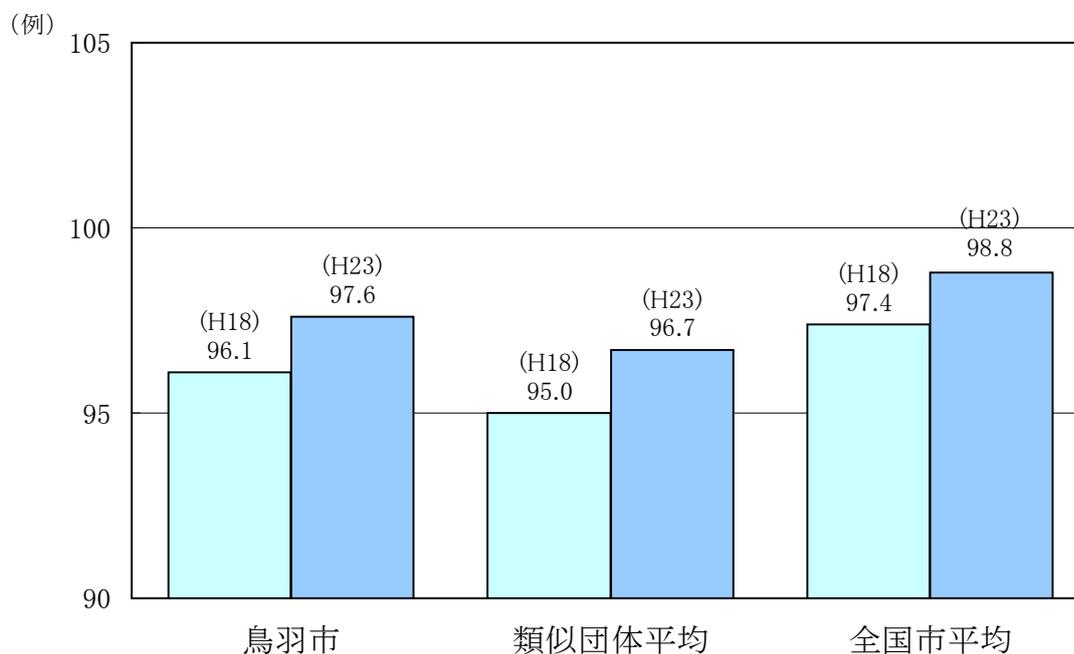
(注) 人件費には、一般職員のほか、市長、副市長等の特別職の給与や市議会議員の報酬などが含まれています。

(2) 職員給与費の状況（普通会計決算）

区分	職員数 A	給与費				一人当たり	(参考)類似団体平均 一人当たり給与費
		給料	職員手当	期末・勤勉手当	計 B	給与費 B/A	
22年度	314人	1,143,501千円	214,104千円	404,978千円	1,762,583千円	5,613千円	5,745千円

- (注) 1 職員給与とは、人件費のうち一般職員に支給される給与諸手当をいいます。
 2 職員手当には退職手当は含まれていません。
 3 職員数は平成22年4月1日現在の人数です。

(3) ラスパイレス指数の状況（各年4月1日現在）



- (注) 1 ラスパイレス指数とは、国家公務員の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を示す指数です。
 2 類似団体平均とは、人口規模、産業構造が類似している団体（人口50,000人未満で、第Ⅲ次産業の構成比率が55%以上の市）のラスパイレス指数を単純平均したものです。

(4) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況（23年4月1日現在）

①一般行政職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額	平均給与月額 (国ベース)
鳥羽市	40.1 歳	303,864 円	390,639 円	326,428 円
三重県	43.1 歳	350,928 円	452,590 円	—
国	42.3 歳	327,205 円	—	397,723 円
類似団体	43.1 歳	325,607 円	384,184 円	351,717 円

②小・中学校(幼稚園)教育職

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
鳥羽市	45.0 歳	339,321 円	355,748 円
三重県	44.3 歳	387,864 円	435,910 円
類似団体	42.9 歳	317,947 円	337,925 円

③技能労務職

I 職種ごとの人数、平均年齢、平均給与及び民間従業員データ（22年4月1日現在）

区 分	公 務 員				民 間			参 考 A/B	
	平均年齢	職員数	平均給料月額	平均給与月額 (A) (国ベース)	対応する民間 の類似職種	平均年齢	平均給与月額 (B)		
鳥羽市	49.4 歳	40 人	317,032 円	340,266 円	324,745 円	—	—	—	
うち清掃作業員	48.1 歳	12 人	316,178 円	347,179 円	329,719 円	廃棄物処理業従業員	44.6 歳	290,600 円	1.19
うち用務員	50.9 歳	6 人	326,583 円	346,657 円	338,416 円	用務員	53.8 歳	209,700 円	1.65
うち学校給食員	51.9 歳	6 人	321,683 円	327,971 円	323,600 円	調理士	42.8 歳	247,600 円	1.32
三重県	47.6 歳	— 人	339,436 円	393,105 円	—	—	—	—	
国	49.5 歳	— 人	283,862 円	—	321,662 円	—	—	—	
類似団体	49.0 歳	— 人	309,198 円	335,585 円	322,040 円	—	—	—	

区 分	参 考 年収ベース(試算値)の比較		
	公務員 (C)	民間 (D)	C/D
鳥羽市	—	—	—
うち清掃作業員	5,123,498 円	4,085,100 円	1.25
うち用務員	5,511,799 円	3,008,200 円	1.83
うち学校給食員	5,212,196 円	3,426,200 円	1.52

(注)※ 民間データは、賃金構造基本統計調査において公表されているデータを使用しています。(平成19年～21年の3ヶ年の平均)

※ 技能労務職の職種と類似すると思われる民間の職種と比較したもので、業務内容、雇用形態等の点において完全に一致しているものではありません。

※ 年収ベースの「公務員(C)」及び「民間(D)」のデータは、それぞれ平均給与月額を12倍したものに、公務員においては前年度に支給された期末・勤勉手当、民間においては前年に支給された年間賞与の額を加えた試算値です。

II 年齢別職員（22年4月1日現在）

区 分	20歳 未満	20歳 ～ 23歳	24歳 ～ 27歳	28歳 ～ 31歳	32歳 ～ 35歳	36歳 ～ 39歳	40歳 ～ 43歳	44歳 ～ 47歳	48歳 ～ 51歳	52歳 ～ 55歳	56歳 ～ 59歳	60歳 以上	合計
全 体						2人	3人	3人	15人	13人	3人		40人
清掃作業員						2人	2人	1人	2人	4人	1人		12人
用務員									5人	1人			6人
学校給食員									3人	3人			6人
その他	1人						1人	2人	5人	5人	2人		16人

Ⅲ その他給与に関する事項

(1) 給料表

現業職給料表（国の行政職給料表（一）及び（二）の合成）を適用しています。

(2) 各種手当

特殊勤務手当：ごみ処理に関する作業に業務に従事した職員（日額300円。ごみ焼却炉内、煙道内若しくは汚水槽内における作業である場合は500円加算）

その他の手当については一般行政職員と同じです。

(3) 昇給基準

毎年1月1日に前1年間の勤務成績について、その者の職務について監督する地位にあるものの証明を得て、4号給（55歳を超える場合は2号給）を標準としています。

Ⅳ 基本的な考え方

集中改革プランの取組みに基づき、原則退職者不補充とし、民間委託を含めた業務の見直しを行います。

給与については、国、県、近隣市町の動向を注視し、適正な運用に努めていきます。

Ⅴ 具体的な取組内容

(1) 給料表

現業職給料表の改定（国の行政職給料表（二）準拠）を検討しています。

(2) 各種手当

特殊勤務手当については、平成16年度に大幅な改定を行ったところであり、他の手当と合わせ適正な運用に努めていきます。

(3) 昇給基準

一般行政職員と同様に、勤務評定制度の導入を検討しています。

(4) 職員採用

職員定数管理計画の目標を達成できるように努めていきます。

Ⅵ その他

年度ごとの退職者数に注視し、また、現場の状況を精査しながら、職員の適正配置を行っていきます。

(注) 1 「平均給料月額」とは、平成23年4月1日現在における各職種ごとの職員の基本給の平均です。
2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、地域手当、住居手当、時間外勤務手当などのすべての諸手当の額を合計したものであり、地方公務員給与実態調査において明らかにされているものです。
また、「平均給与月額（国ベース）」は、国家公務員の平均給与月額には時間外勤務手当、特殊勤務手当等の手当が含まれていないことから、比較のため国家公務員と同じベースで再計算したものです。

(5) 職員の初任給の状況 (23年4月1日現在)

区 分		鳥 羽 市	三 重 県	国(国家公務員Ⅱ種)
一般行政職	大 学 卒	172,200 円	178,800 円	172,200 円
	高 校 卒	140,100 円	144,500 円	140,100 円

(6) 職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況 (23年4月1日現在)

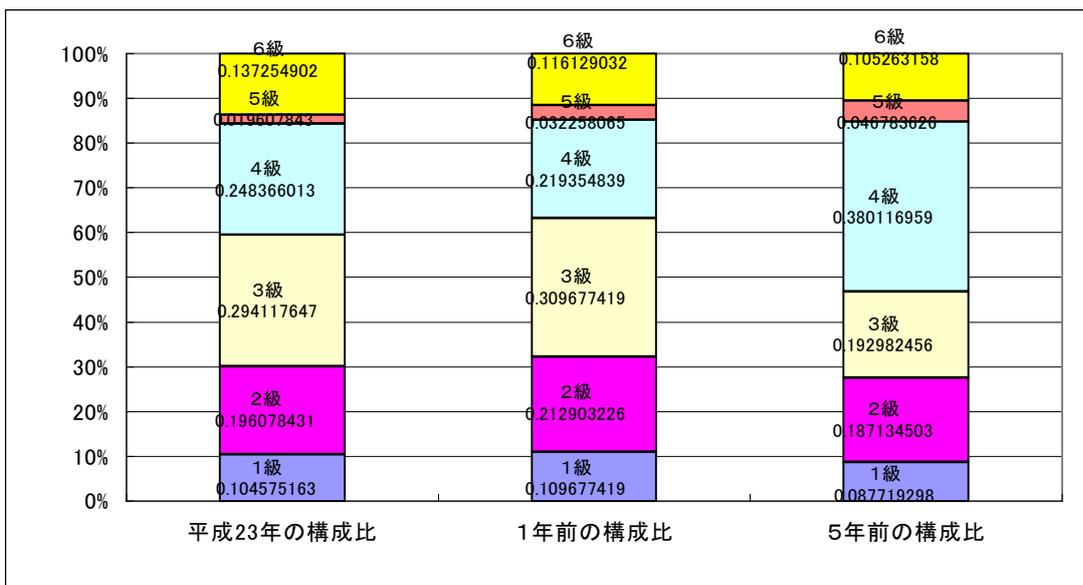
区 分		経験年数10年	経験年数15年	経験年数20年
一般行政職	大 学 卒	250,400 円	288,400 円	321,900 円
	高 校 卒	205,400 円	250,400 円	288,400 円
技能労務職	高 校 卒	200,800 円	222,200 円	263,900 円
	中 学 卒	—	—	—

- (注) 1 職員の給料は、職務や学歴、経験年数によって決められます。
 2 経験年数とは、卒業後直ちに採用され引き続き勤務している場合は、採用後の年数をいいます。

(7) 一般行政職の級別職員数の状況 (23年4月1日現在)

区 分	標準的な職務内容	職員数	構成比
1 級	事務職員・技術職員	16人	10.5%
2 級	事務職員・技術職員	30人	19.6%
3 級	係長・主査・事務職員・技術職員	45人	29.4%
4 級	課長補佐・係長・主査	38人	24.8%
5 級	課長・副参事	3人	2.0%
6 級	課長・副参事	21人	13.7%

- (注) 1 鳥羽市職員給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。
 2 標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。



- (注) 平成18年度より8級制から6級制に変更しています。(5年前の構成比については、旧給料表の1級及び2級を新1級に、4級及び5級を新3級にそれぞれ統合して表記しています。)

(8) 昇給期間短縮の状況

区 分		全 職 種
22年度	職 員 数 A	352人
	普通昇給期間(12~24月)を 短縮して昇給した職員数 B	0人
	比 率 B/A	0.0%
21年度	職 員 数 A	360人
	普通昇給期間(12~24月)を 短縮して昇給した職員数 B	人
	比 率 B/A	0.0%

(9) 職員手当の状況

① 期末手当・勤勉手当

鳥 羽 市	三 重 県	国
1人当たり平均支給額(22年度) 1,365 千円	1人当たり平均支給額(22年度) 1,614 千円	—
(23年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.35 月分 (1.45)月分 (0.65)月分	(23年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.35 月分 (1.45)月分 (0.65)月分	(23年度支給割合) 期末手当 2.60 月分 勤勉手当 1.35 月分 (1.45)月分 (0.65)月分
(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・ 役職加算 5~10% ・ 管理職加算 10~15%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・ 役職加算 5~20% ・ 管理職加算 15~25%	(加算措置の状況) 職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・ 役職加算 5~20% ・ 管理職加算 10~25%

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合です。

【参考】 勤勉手当への勤務成績反映状況

- ① 勤務成績の評定の実施状況
地方公務員法第40条に基づき、平成16年度より一部を除く全職員に対し勤務評定の試行を行っています。
- ② 勤勉手当への勤務成績の反映状況
課長級及び課長補佐級職員については、業績・態度を勤勉手当の成績率に反映しています。

② 退職手当 (23年4月1日現在)

鳥 羽 市	国
(支給率) 自己都合 勤続20年 23.50 月分 勤続25年 33.50 月分 勤続35年 47.50 月分 最高限度額 59.28 月分	(支給率) 自己都合 勤続20年 23.50 月分 勤続25年 33.50 月分 勤続35年 47.50 月分 最高限度額 59.28 月分
勸奨・定年 30.55 月分 41.34 月分 59.28 月分	勸奨・定年 30.55 月分 41.34 月分 59.28 月分
(退職時特別昇給 無)	
1人当たり平均支給額	
自己都合等 9,100 千円	
定年 24,739 千円	

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、22年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

③ 地域手当 (23年4月1日現在)

支給実績(22年度決算)		派遣職員	524 千円
		市内診療所の医師	2,143 千円
支給職員1人当たり平均支給年額(21年度決算)		派遣職員	174,810 円
		市内診療所の医師	1,071,450 円
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	国の制度(支給率)
津市(5級地)	6 %	3 人	6 %
鳥羽市	0 %	0 人	0 %
市内診療所の医師	15 %	2 人	15 %

④ 特殊勤務手当 (23年4月1日現在)

支給実績(22年度決算)	11,706 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額(22年度決算)	127,231 円		
支給職員1人当たり平均支給年額(22年度決算・医師を除く)	28,389 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合(22年度)	25.3 %		
手当の種類(手当数)	8種類		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
感染症防疫作業従事手当	防疫業務に従事した職員	感染症防疫作業	1日につき300円
行旅病人及び死体の取扱作業従事手当	行旅病人取扱作業に従事した職員	行旅病人の取扱作業	1件につき1,500円
	死体取扱作業に従事した職員	死体の取扱作業	1件につき3,000円
消防職員業務従事手当	火災・水防その他災害出動した消防職員	火災出動等における危険作業	1件につき250円
	救急業務に従事した消防職員	救急業務	1件につき250円
	救急救命士の資格を有する消防職員	救急救命措置に係る業務	上記に300円加算
ごみ処理業務従事手当	ごみ処理業務従事した職員	ごみ処理業務	1日につき300円
	ごみ焼却炉内、煙道・汚水路内の作業に従事した職員	ごみ焼却炉内、煙道・汚水路内の作業	上記に500円加算
船舶職員業務従事手当	船長職務に従事した船員	船長業務	1日につき120円
	機関長職務に従事した船員	機関長業務	1日につき80円
災害業務従事手当	災害対策本部の指示により、災害業務(気象警報発令中、屋外被害状況調査等)に従事した職員	災害業務(気象警報発令中、屋外被害状況調査等)	1日につき250円
医療事務従事手当(医師)	医師国家試験に合格し、診療所において医療事務に従事する職員	医療事務	1月につき70,000円
		往診業務	社会保険診療報酬点数表乙表に定める往診料の1/2
		夜間診療待機	1夜につき4,200円
医療事務従事手当(看護師)	看護師国家試験又は准看護師試験に合格し、診療所において医療事務に従事する職員	医療事務	1日につき150円 (限度額1,500円)

⑤ 時間外勤務手当

22年度 決算	支給実績	57,244 千円
	職員1人当たり平均支給年額	174 千円
21年度 決算	支給実績	58,090 千円
	職員1人当たり平均支給年額	174 千円

⑥ その他の手当 (23年4月1日現在)

手 当 名	内容及び支給単価	国の制度との異同	国の制度と異なる内容	支給実績 (22年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (22年度決算)
扶養手当	ア 配偶者 13,000円 イ 配偶者以外の扶養親族 6,500円 ただし、配偶者のいない場合 1人目 11,000円 2人目以降 6,500円 なお、満16歳以上22歳までの子については 5,000円加算	同じ	—	40,846 千円	229,467 円
住居手当	ア 借家、借間居住者支給対象 12,000円を超える額 最高支給額 27,000円	同じ	—	19,568 千円	287,753 円
通勤手当	ア 交通機関利用者 全額支給限度額 支給単位期間のうち最も長い 支給単位期間の1ヶ月当たりの 運賃相当額 55,000円 イ 交通用具利用者 2km以上5km未満 2,000円 5km以上10km未満 4,100円 10km以上60km未満 距離区分 に応じて6,500円～23,600円 60km以上 24,500円	同じ	—	24,355 千円	82,278 円
管理職手当	○ 課長・副参事の管理職に支給 ア 課長 40,000円 イ 副参事 35,000円	異なる	○ 管理又は監督の地位にある職員の官職のうち、規則で指定する官職を占める職員に対し支給	12,875 千円	429,166 円
管理職特別勤務手当	○ 管理職が臨時又は、緊急の必要等により週休日又は休日等に勤務した場合 6,000円 ただし、勤務に従事した時間が6時間を超える場合 9,000円	異なる	○ 管理職が臨時又は、緊急の必要等により週休日又は休日等に勤務した場合 一種 12,000円 二種 10,000円 三種 8,500円 四種 7,000円 五種 6,000円	135 千円	8,437 円
初任給調整手当	○ 医療職給料表の適用を受ける職員のうち、採用による欠員補充が困難と認められる職で新たに採用された職員 306,900円	同じ	—	9,862 千円	4,930,800 円
休日勤務手当	○ 祝日及び年末年始に勤務した職員に通常の時間単価に100分の135を乗じた額	同じ	—	9,200 千円	287,495 円
夜間勤務手当	○ 正規の勤務時間として午後10時から翌日の午前5時までの間に勤務した職員に支給 時間単価の100分の25	同じ	—	4,857 千円	152 円
特地勤務手当	○ 神島町に所在する公署に勤務するため住居を移転した職員 給料月額額の12%	/		0 千円	0 円
単身赴任手当	○ 公署を異にする異動等に伴い、住居を移転し、同居していた配偶者と別居することとなった職員 23,000円	同じ	—	0 千円	0 円
宿日直手当	○ 宿日直勤務1回につき 4,200円	同じ	—	0 千円	0 円

(10) 特別職の報酬等の状況（23年4月1日現在）

区分	給料	月額		等
		額	額	
給料	市長	890,000 円	940,000 円	259,000 円
	副市長	688,000 円	750,000 円	249,000 円
報酬	議長	445,000 円	545,000 円	230,000 円
	副議長	377,000 円	474,000 円	200,000 円
	議員	337,000 円	450,000 円	180,000 円
期末手当	市長	(23年度支給割合)		
	副市長	3.55 月分		
退職手当	議長	(23年度支給割合)		
	副議長	3.25 月分		
退職手当	市長	(算定方式)	(支給時期)	
	副市長	給料月額×(450/100)×在職年数	任期毎	
	備考	給料月額×(280/100)×在職年数	任期毎	

(11) 公営企業職員の状況

(I) 水道事業

① 職員給与費の状況

ア 決算

区分	総費用 A	純損益又は 実質収支	職員給与費 B	総費用に占める 職員給与費比率 B/A	(参 考) 21年度の総費用に占 める職員給与費比率
22年度	986,825千円	296,725千円	118,186千円	11.98%	13.92%

区分	職員数 A	給 与 費			計 B	一人当たり 給与費 B/A
		給 料	職員手当	期末・勤勉手当		
22年度	16人	66,604千円	7,012千円	24,210千円	97,826千円	6,114千円

(参考) 全国市町村平均 一人当たり給与費
6,443千円

- (注) 1 職員手当には退職給与金を含みません。
2 職員数は、平成23年3月31日現在の人数です。

② 職員の基本給、平均月収額及び平均年齢の状況（23年4月1日現在）

区分	平均年齢	基本給	平均月収額
鳥羽市	47.0 歳	337,940 円	506,821 円
全国市町村平均	45.6 歳	362,100 円	535,892 円
事業者	—	—	—

- (注) 1 基本給には、給料と扶養手当が合算されています。
2 平均月収額には、期末・勤勉手当等を含みます。

③ 職員の手当の状況

ア 期末手当・勤勉手当

鳥 羽 市			鳥羽市(水道事業以外の職員)		
1人当たり平均支給額(22年度)			1人当たり平均支給額(22年度)		
1,425 千円			1,365 千円		
(23年度支給割合)			(23年度支給割合)		
期末手当	勤勉手当		期末手当	勤勉手当	
2.60 月分	1.35 月分		2.60 月分	1.35 月分	
(1.45)月分	(0.65)月分		(1.45)月分	(0.65)月分	
(加算措置の状況)			(加算措置の状況)		
職制上の段階、職務の級等による加算措置			職制上の段階、職務の級等による加算措置		
・ 役職加算 5～10%			・ 役職加算 5～10%		
・ 管理職加算 10～15%			・ 管理職加算 10～15%		

(注) ()内は、再任用職員に係る支給割合です。

イ 退職手当(23年4月1日現在)

鳥 羽 市			鳥羽市(水道事業以外の職員)		
(支給率)	自己都合	勸奨・定年	(支給率)	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.50 月分	30.55 月分	勤続20年	23.50 月分	30.55 月分
勤続25年	33.50 月分	41.34 月分	勤続25年	33.50 月分	41.34 月分
勤続35年	47.50 月分	59.28 月分	勤続35年	47.50 月分	59.28 月分
最高限度額	59.28 月分	59.28 月分	最高限度額	59.28 月分	59.28 月分
(退職時特別昇給 無)			(退職時特別昇給 無)		
1人当たり平均支給額			1人当たり平均支給額		
自己都合等	0 千円		自己都合等	13,586 千円	
定年	0 千円		定年	23,713 千円	
勸奨	0 千円		勸奨	29,083 千円	

(注) 退職手当の1人当たり平均支給額は、22年度に退職した全職種に係る職員に支給された平均額です。

ウ 地域手当(23年4月1日現在)

支給実績(22年度決算)		0 千円	
支給職員1人当たり平均支給年額(20年度決算)		0 円	
支給対象地域	支給率	支給対象職員数	一般行政職の制度(支給率)
鳥羽市	0 %	0 人	0 %

エ 特殊勤務手当(23年4月1日現在)

支給実績(22年度決算)	0 千円		
支給職員1人当たり平均支給年額(22年度決算)	0 円		
職員全体に占める手当支給職員の割合(22年度)	0.0 %		
手当の種類(手当数)	1		
手当の名称	主な支給対象職員	主な支給対象業務	左記職員に対する支給単価
災害業務従事手当	災害対策本部の指示により、災害業務(気象警報発令中、屋外被害状況調査等)に従事した職員	災害業務(気象警報発令中、屋外被害状況調査等)	1日につき250円

オ 時間外勤務手当

22年度 決算	支給実績	1,200 千円
	職員1人当たり平均支給年額	75 千円
21年度 決算	支給実績	1,270 千円
	職員1人当たり平均支給年額	80 千円

カ その他の手当（23年4月1日現在）

手 当 名	内容及び支給単価	一般行政職 の制度との 異同	一般行政職 の制度と 異なる内容	支給実績 (22年度決算)	支給職員1人当たり 平均支給年額 (22年度決算)
扶養手当	ア 配偶者 13,000円 イ 配偶者以外の扶養親族 6,500円 ただし、配偶者のいない場合 1人目 11,000円 2人目以降 6,500円 なお、満16歳以上22歳まで の子については 5,000円加算	同じ	—	2,134 千円	193,994 円
住居手当	ア 借家、借間居住者支給対象 12,000円を超える額 最高支給額 27,000円	同じ	—	234 千円	234,000 円
通勤手当	ア 交通機関利用者 全額支給限度額 支給単位期間のうち最も長い 支給単位期間の1ヶ月当たりの 運賃相当額 55,000円 イ 交通用具利用者 2km以上5km未満 2,000円 5km以上10km未満 4,100円 10km以上60km未満 距離区分 に応じて6,500円～23,600円 60km以上 24,500円	同じ	—	1,157 千円	105,140 円
管理職手当	○ 課長・副参事の管理職に支給 ア 課長 40,000 イ 副参事 35,000	同じ	○ 管理又は監督の地位 にある職員の官職の うち、規則で指定する 官職を占める職員に 対し支給	900 千円	450,000 円
管理職特別勤務手当	○ 管理職が臨時又は、緊急の必要 等により週休日又は休日等に勤務 した場合 6,000円 ただし、勤務に従事した時間が 6時間を超える場合 9,000円	同じ	○ 管理職が臨時又は、 緊急の必要等により 週休日又は休日等に 勤務した場合 一種 12,000円 二種 10,000円 三種 8,500円 四種 7,000円 五種 6,000円	0 千円	0 円
休日勤務手当	○ 祝日及び年末年始に勤務した職員 に通常の時間単価に100分の135を 乗じた額	同じ	—	0 千円	0 円
夜間勤務手当	○ 正規の勤務時間として午後10時から 翌日の午前5時までの間に勤務した 職員に支給 時間単価の100分の25	同じ	—	1,389 千円	277,768 円
特地勤務手当	○ 神島町に所在する公署に勤務する ため住居を移転した職員 給料月額額の12%			0 千円	0 円
単身赴任手当	○ 公署を異にする異動等に伴い、住居 を移転し、同居していた配偶者と別居 することとなった職員 23,000円	同じ	—	0 千円	0 円
宿日直手当	○ 宿日直勤務1回につき 4,200円	同じ	—	0 千円	0 円

④定員管理の数値目標及び進捗状況

ア 平成22年4月1日～平成27年4月1日における定員管理の数値目標
→1(5)①を参照

イ 定員管理の数値目標の年次別進捗状況（実績）の概要
→1(5)②を参照

3 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況

(1) 勤務時間

原則週休2日制、週38時間45分勤務で、1日の勤務時間は8時30分から17時15分までとなっています。市民サービスの向上、業務の効率化などの目的で、勤務時間帯をずらしたり、交替制勤務としたりするなど、業務内容によって異なる勤務形態をとっています。

(2) 休暇制度

休暇には大きく次の4つがあります。

- ① 年次有給休暇 1年(暦年)あたり20日間の年次有給休暇が与えられます。残日数がある場合は、20日を限度として翌年に繰り越すことができます。
- ② 病気休暇 病気療養に必要な期間(90日以内)について有給で与えられます。
- ③ 特別休暇 特定の事由に基づいて有給で認められます。結婚休暇、忌引休暇、産前・産後休暇、ボランティア休暇、夏季休暇などがあります。
- ④ 介護休暇 配偶者等の介護が必要な期間(連続する6月以内)について無給で与えられます。

4 職員の分限及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分の状況

分限処分は、公務能率を維持することを目的として、心身の故障や職に必要な適格性を欠くなど一定の事由がある場合に、職員の意に反する不利益な身分上の変動をもたらす処分です。

その種類として、免職、降任および休職があります。
平成21年度の方限処分の状況は表のとおりです。

区 分	免 職	降 任	休 職	合 計
市 長 部 局			6人	6人

(2) 懲戒処分の状況

懲戒処分は、職員が法令や職務上の義務等に違反した場合に道義的責任を問うことにより、公務における規律と秩序を維持することを目的とする処分です。

その種類として、免職、停職、減給、戒告があります。

市民のみなさんからの信頼を確保していくために、今後とも服務規律の遵守の徹底を図るとともに、不祥事が発生した際には厳正に対処してまいります。

平成22年度の方懲戒処分の状況は表のとおりです。

区 分	免 職	停 職	減 給	戒 告	合 計
市 長 部 局				1人	1人
教 育 委 員 会					
合 計				1人	1人

5 職員の服務の状況

(1) 服務に関する基本原則の概要

基本原則	概 要
職務専念義務	全体の奉仕者として、勤務時間中全力で職務遂行する義務
信用失墜行為の禁止	職の信用を傷つけたり、職の全体の不名誉となる行為の禁止
営利企業等の従事制限	営利企業等の従事することは制限されており、従事するには許可が必要
争議行為等の禁止	争議行為等の禁止
守秘義務	職務上知り得た秘密を漏らさない
政治的行為の制限	政党その他の政治団体の結成等に関与する等の政治的行為の禁止

6 職員の研修及び勤務成績の評定の状況（平成22年度）

(1) 職員研修の実施状況

職員研修については、基本方針として

- ① 職責の重要性を認識するとともに、人間性豊かな職員の育成
- ② 職務を公正・的確かつ効率的に処理する実務能力を備えた職員の育成
- ③ 幅広い視野、柔軟な思考力を備えた職員の育成

に沿って実施しています。

実施状況については、表のとおりです。

<庁内研修・自己啓発>

研 修 名	受講者数	日 数
新規採用職員研修	14人	6日
管理職研修	16人	1日
危機管理研修	21人	1日
法制執務研修	16人	2日
メンタルヘルス研修	41人	1日
クレーム対応強化研修	25人	1日
タイムマネジメント研修	22人	1日
接遇研修	39人	2日
人権啓発研修	4人	1日
防災・交通安全研修	224人	4日
通信教育講座	6人	-
犯罪被害者支援研修会	42人	1日

<派遣研修>

派 遣 先	受講者数
三重県自治会館組合	30人
三重県職員研修センター等	5人

(<専門研修>

研 修 名	受講者数
公有財産管理の法律実務と対策研修ほか12研修	13人

7 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 職員の健康管理について

労働安全衛生法及び安全衛生管理規程に基づき、職員の安全及び健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進するため、安全衛生委員会の開催、定期健康診断、メンタルヘルス研修、産業医の保健指導・健康相談を実施しています。

(2) 互助会への支出状況

地方公務員法第42条に定められている、職員の保健、元気回復その他厚生に関する事項について計画を樹立し実施していくため、(財)三重県市町村職員互助会に加入しています。

平成22年度負担金支払額

5,558,783 円

(23年4月1日現在)

事業名称		事業内容	
各種祝金	・結婚祝金	・会員が結婚した時	50,000 円
	・銀婚祝金	・会員が銀婚を迎えた時	30,000 円
	・出産祝金	・会員及び配偶者が出産した時 1人につき	30,000 円
	・入学祝金	・会員の扶養家族が小、中学校に入学した時	10,000 円
	・卒業祝金	・会員の扶養家族が中学校を卒業した時	10,000 円
弔慰金	・弔慰金	・会員、会員の配偶者及び子、会員の実父母、会員の同居の親族が死亡した時	
		会員	100,000 円
		配偶者及び子 会員の实父母(養父母を含む)	50,000 円 20,000 円
災害見舞金	・災害見舞金	・会員の住居及び家財が火・水・震災等により被害を受けた時	
		100万円以上の被害	100,000 円
		50万円以上の被害	50,000 円
	・車両損害見舞金	・会員の所有する車両が水災・雪災により被害を受けた時	
		原動機付自転車	10,000 円
		自動二輪車	20,000 円
	自家用軽四輪自動車	30,000 円	
	自家用小型自動車以上	50,000 円	
レジャー・	・活力づくり補助金	・会員がリフレッシュのため宿泊施設を利用し、1泊以上の旅行をした時など	20,000 円
その他事業	・入院見舞金	・会員、会員の配偶者及び子が病気や怪我で入院した時	
		1日につき 会員 配偶者及び子	2,000 円 1,300 円

(3) その他の福利厚生について

職員の共済制度については、地方公務員等共済組合法に基づき各共済組合にて制度を実施しています。

平成22年度負担金支払額 427,462,751 円 (三重県市町村職員共済組合)
19,190,317 円 (公立学校共済組合三重支部)

公務災害補償については、地方公務員災害補償法に基づき地方公務員災害補償基金が主体となり

8 公平委員会の報告

平成22年度負担金支払額 3,550,642 円

(1) 公平委員会の概要

- ① 職員の給与等勤務条件に関する措置の要求を審査及び判定し、必要な措置を執ります。
- ② 職員に対する不利益な処分についての不服申立てに対する裁決又は決定をします。

(2) 公平委員会の業務の状況 (平成22年度)

業務の種類別	件数
勤務条件に関する措置の要求	0件
不利益処分に関する不服申立て	0件